

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ベつかり海の家	評価実施年月日	平成20年7月31日
評価実施構成員氏名	石川 延子・小武 真寿美・工藤 明美・佐田 尚子・本川 恭子・藤下 育子		
記録者氏名	藤下 育子	記録年月日	平成20年8月17日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所で考えた理念があり、それに沿ってケアを進めているが、スタッフ全員に周知されておらず、完全に出来ているとはいえない。</p>	○	<p>今後、会議等を行い、改めて理念を考えスタッフ全員がそれを理解しケアを行えるように配慮したい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事業所で考えた理念があり、それに沿ってケアを進めているが、スタッフ全員に周知されておらず、完全に出来ているとはいえない。</p>	○	<p>今後、会議等を行い、改めて理念を考えスタッフ全員がそれを理解しケアを行えるように配慮したい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議等が、現段階で定期的開催が出来る状態ではなく、地域の方々への周知が出来ていない状態である。</p>	○	<p>定期的な運営推進会議の開催をし、その上で地域の方々やご家族の皆様へ理解をしていただけるよう努力したい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域開催のお祭りや行事などへの参加を積極的に行っており、訪問・面会など積極的に受け入れているが、近所の方々との日常的なふれあい等は極端に少ない状態である。</p>	○	<p>今後も地域の行事等へ積極的に参加し、近隣の方々が立ち寄りやすい環境を整えるよう努める。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事や老人クラブへ、積極的に参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>特に積極的な話し合いや取り組みを行っていない。</p>	○	<p>運営推進会議を開催することにより、話し合いの機会などを多く作り、積極的に貢献できるよう取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフの自己評価、及び地域密着型サービス事業者 自己評価を取り組み改善へ向けての努力をしている。	○	改善へ向けてのもっと積極的な検討及び実施をしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	グループホーム開設後、会議を1回しか行っておらず、今後は定期的な会議の開催及び、会議内容の提示及びスタッフ全員への周知を行うことにより、サービスの向上が必要と思われる。	○	運営推進会議の定期的な開催意及び、内容の開示スタッフへの周知。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議の出席や、介護相談員の受け入れなど。		今後も継続的に参加・受け入れを行っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	スタッフの学ぶ機会が無いこともあり、現状は積極的な支援などを行っていない状態である。	○	勉強会などを通じ、スタッフ全員がその知識を活用し、サービスの提供が行えるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待を見過ごすことは無いが、高齢者虐待防止関連法などを学ぶ機会が無い状態。	○	勉強会などを通じ、スタッフ全員がその知識を活用し、サービスの提供が行えるようにする。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時など、しっかりと説明を行い、不安解消に努めている。また、常に疑問に思われたことに対してしっかりと返答できるよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> <p>スタッフ等が、不満や苦情など、話しやすい環境を提供するよう努めている。また、介護相談員の連絡先を掲示するなど、外部へ意見を表すことが出来るよう配慮も行っている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p> <p>月1回、海の家たよりを発行し、それに個々の方々の状態を記入し、写真なども印刷しお送りしている。面会時には、通院や生活状態などの報告を行っている。また、健康状態や生活の状況などに急激な変化があった場合、ご家族様へ連絡をしている。</p>		このまま継続的に行っていく。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> <p>ホーム以外の苦情相談窓口などの連絡先を掲示している。また、スタッフへも直接話しが出来る機会がある。</p>	○	スタッフと家族のコミュニケーションがもっととりやすいように信頼関係を築けるよう配慮する。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> <p>毎朝のミーティング時など、意見を述べられる機会はある。</p>	○	運営者・管理者としっかりと話し合いを行える環境として、月1回のスタッフ会議の開催を行っていく。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p> <p>内容に応じて、随時検討を行い、取り組む努力を行っている。</p>		継続していきたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> <p>開設後、管理者の離職もあり、新たな管理者の配属やパート職員の配置などもあったが、ダメージを最小限にするよう配慮は行っている。</p>		今後も同様に、最小限に出来るよう努力を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部の研修の案内などの掲示は行っているが、積極的に参加が出来る環境とはいえない。また、ホーム内独自の勉強会や研修などを行っていない。</p>	○	<p>外部研修の参加の促しや環境整備、ホーム内での勉強会の開催などを視野に置き、積極的に学べる環境を整えたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域性もあり、交流会の開催やネットワーク作りが出来ていない。</p>	○	<p>ネットワーク作りなど、積極的に声掛けを行い参加ができる環境を整えたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休日の希望・変更や、勤務の日程の調整などを行うことにより、ストレス軽減の努力を行っている。また、問題点などに対して、改善出来る様話し合いの機会を持ち、スタッフの負担軽減にも努めている。</p>		<p>今後も同様に、努力を続けたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>日頃の勤務状況や各自の自己評価を元に、スタッフ一人ひとりの状況を把握できるよう努力しているが、負担が偏りがちであるので、各自のレベルアップを含めた体制の強化なども必要な状況。</p>	○	<p>各自が勉強などの出来る機会を作り、レベルアップを図れるよう環境を整えたい。また、意見の反映などが出来るように配慮したい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居者様から意見を出来るだけ聞き取れるよう配慮し、不安や求めていることを出来る限り解消・実現できるようケアを行っている。ただし、入居前の事前の聞き取りなど、スタッフに対しての情報共有が少ない状況でもある為、今後は配慮すべき点である。</p>	○	<p>スタッフ全員に対し、事前の情報共有の場を設け、ケアに対する意志の統一を図れるようにする。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居以前にしっかりと話し合いの環境が整えられておらず、面会時などにお話を伺う状態である。</p>	○	<p>入居初期段階で、もっとご家族の方々との話しが出来る環境を作り、その内容をスタッフに提示し、ケアをよりよいもの出来るよう配慮する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係や状況を把握し、入居者様同士が楽しくコミュニケーションが取れるよう配慮している。また、共同で行える作業をしていただき、支えあえる環境を提供している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在まで、その様なケースがない為行っていないが、その内容に合わせ、対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	すべてを把握仕切れていないのが現状ではあるが、把握した内容に関しては、本人の意見を尊重し、実現できるよう検討し努めている。	○	しっかりと、その人その人の希望などを把握できるように努力する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から、今までの生活などを聞くように努めているが、これまでのサービス利用など、詳しい内容などは把握仕切れていない。	○	事前の情報収集などをしっかりと行い、把握できるように努めます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の状態を記録し、定期的なバイタルチェック、食事・排泄のチェックを行うことにより、日々の状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族へ意向を伺い作成はしていたが、直接ケアに当たっているスタッフの意見が盛り込まれていない部分もある。	○	ケア会議の開催を定期的に行うことにより、スタッフの意見も組み込み、ケアプランの作成を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	積極的な見直しが行われていない。	○	今後は、定期以外でも見直しを随時行い、ケアプランに反映させていく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録などを利用し、情報共有に努めている。ケアプランへの反映がなされていない。	○	記録などを有効に活用し、ケアプランへも反映することによりよりよいケアが実践されるように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時の状態に応じ、対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	積極的とはいえないが、協力を得ながら支援を行っている。	○	もっと積極的にボランティアなどを受け入れ、お手伝いをしていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他事業所のお祭りなどに参加したり、2週に1回保健センターにて、地域の事業者とのコミュニケーションの場があり参加したりしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域ケア会議に参加したり、その他、運営推進会議に参加していただいたり、保健センターでの2週に1回の会議時に相談が出来る環境を作り、状況に応じて一緒に協働できる状態となっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		現状の対応の通り、本人の希望時や定期受診、緊急時の対応などを継続的に行う。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	スタッフ間とも情報を共有できるように配慮する。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		今後も継続的に体制を整え、より良いサービスの提供に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>使い慣れたものの持込や配置などに気を配り、また、ご家族との協力を得、ダメージ軽減に努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉掛け等に配慮している。また、記録に対する管理へも配慮している。</p>	○	<p>個人情報の管理をもっと徹底し行う。また、言葉使いに関しても、より気をつける必要がある。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の希望を訴えられるよう、配慮し、また、自己決定が出来るよう援助を行っている。 ホームで対応が困難な内容に関しては、本人が納得できるよう噛み砕いての説明を行っている。</p>	○	<p>ホームでの対応が困難な内容などを明確にし、しっかりと理解していただけるように配慮していく。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>希望に添える様に努めており、必要に応じて助言や援助を行っている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の希望にあわせ、衣服の選択や散髪などの対応を行っている。また、行きつけの理容院への送迎なども対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立や調理の参加など、時折行っていただいている。片付けなども行ってくださるときもある。また、好みの食材を伺ったり、食事量の調節などを行ったり等、対応をしている。	○	積極的に入居者の方々が調理などに参加できる環境を作る。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の現病により、管理が必要な方以外に関しては、日常的に楽しめるよう自己管理を行っている。また、自己管理が出来ない方やスタッフ側で管理が必要な状況にある方に関しては、楽しみが継続出来る様、配慮している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄の状態を記録し把握している。状況に応じて声掛け誘導を行い、気持ちよく排泄が行われるように努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望に沿った回数とはいえないが、定期的に入れるように調整し、対応している。入浴の時間やお湯の温度などに関しては、本人の希望に添える援助を行っている。	○	本人の希望の回数など、対応が出来ていない面もあり、今後の検討課題とする。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	共有空間で休まれたり、自室で休まれたりと、本人の希望する場所で休むことが出来る環境を提供している。また、自室でも、安眠できるよう環境整備及び援助を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの身体能力を把握し、出来ること・出来ないことを理解した上で、役割など果たせるよう援助している。しかし、生活歴を正しく理解したうえで対応ではない。	○	生活歴をしっかりと把握し、その人その人にあつた援助・対応が出来るように配慮をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が出来る範囲でのお小遣い程度は持っているが、病院代などの日常的に使用するお金に関しては、スタッフが預かり金として管理を行っている。 自己管理しているお小遣いに関しては、現在本人が買い物に行って使用するなどの機会がある人とならない人がいる状態である。	○	買い物に行きたいなどの希望に対し、対応が出来るようにサービスの調整などを行っていく。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	すべての入居者の方々に対し対応がしきれていないが、希望に沿って散歩や畑作業、外出の支援を行っている。	○	それぞれの方々が希望される場所への外出の手助けが出来るように、計画し実行できるように検討・対応する。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	すべての入居者の方々に対し対応がしきれていないが、希望に沿って外出が出来るように配慮している。 その他、外出行事としての支援は行っている。	○	それぞれの方々が希望される場所への外出の手助けが出来るように、計画し実行できるように検討・対応する。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙など、自由に出来るように支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	特に時間の制限なども無く、自由に面会や遊びに来れるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	特に身体拘束などは行っていないが、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」に対して正しい理解がスタッフ全員が出来ていない状態。	○	勉強会などを通し、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できるようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の居室などに鍵は無いが、玄関は国道や海岸に近いこともあり、危険回避の為施錠している。	○	施錠をしないケアをどのように展開していくべきかをスタッフ・運営者・管理者を含め協議を行い、実践していく。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在や様子を把握し切れていない面もあるが、安全に配慮し、把握できるように努めている。また、その際に、プライバシーへの配慮も行っている。	○	現在把握しきれないと感じている面に関しても、補いつつ、しっかりと安全確保・把握ができるように努める。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品に関しては、その人のレベルに応じて本人も含め保管についての話し合いを行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	見守りなどを通し、事故発生を未然に防ぐ努力を行っている。ひやりはっとの記入を行っているが、正しく活用ができていない。また、しっかりとしたマニュアルなどの作成・掲示がされていない。	○	ひやりはっとの活用および事故発生時のマニュアルの掲示を行う。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	普通救命救急の講習を受けているスタッフもいるが、途中入社スタッフに関しては行っていない。また、119番通報のマニュアルがあるも、その他の緊急時に対応するマニュアルができていない。	○	マニュアルの作成および掲示を早急に行う。また、普通救命救急の講習などに関しても、随時行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	現段階では避難訓練などを行っていない。	○	避難訓練および事故や火災発生時などのマニュアルの作成と周知徹底を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況に応じて、家族へ連絡や相談などを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的なバイタルチェックを行い、週2回の看護師による健康管理を行うことにより、早期発見・早期対応を心がけている。しかし、スタッフ全員へ正しく情報が行き渡っておらず、同一の対応ができていない場合がある。	○	スタッフ全員が体調の変化を発見でき、正しく対応ができる様、勉強会を行う。また、情報の共有が行える体制を整える。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフ全員が正しく薬に対しての知識が不足している。	○	入居されている方が内服している薬に関して、正しい知識が持てるよう、ケア会議などを通して勉強をできる環境を整える。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェックなどを行うことにより、状態の把握に努めているが、便秘によって起こりうる影響に対しての理解が乏しい。	○	食事などでの便秘解消に対してのケアの継続と、起こりうる影響について学べる機会を設ける。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けや必要な方に対しての介助を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取表・水分チェック表を用い、入居者一人一人の状態を把握できるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	インフルエンザの予防接種やうがい手洗いなどの予防を行っている。しかし、感染症マニュアルなどの掲示は行っていない。	○	マニュアルの掲示を行い、より一層の予防に努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理機材の定期的な消毒と、食品の賞味期限などの管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇の作成や玄関周りにいすを設置するなど、玄関周辺的环境整備もやっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れるため、花を飾ったり壁に飾りをしたりなどの配慮を行っている。また、不快感を与えるような不自然な光などを排除し、自然光や明るすぎない蛍光灯などを使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間も広くあり、一人でのんびりと過ごしたい方のためにホールにソファやいすなどを設置し、また自由に読めるように本などを置き楽しんでいただけるように配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものを持ち込んでいただき、また、本人や家族の方と相談し居心地のよい空間を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>日中は換気に気を配り、窓を開けての換気や換気扇を回すなど、配慮をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置や各箇所へのいすの設置などを行い、入居者の方々の動線に配慮を行っている。</p>		
<p>86 ○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人一人の状態に合わせて、わかる事に対しての見守り・援助を行っている。</p>		
<p>87 ○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>スタッフと共に外で畑の仕事や花を見に行くなどし、ベランダへも自由に入りできる環境を整えている。しかし、外で休める環境などが少ない。</p>	○	<p>ベンチの設置など、今後検討をしていく。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】